

## 9グループ

2050年に生き残る大学になるために

2024.10.22

## 目次

---

1.2050年の動向

2.背景

3.将来に向けてどう変わっていくか

4.具体的な解決策

5.データ活用でこんなことができる！

2050年の動向

## 18歳人口（推計）

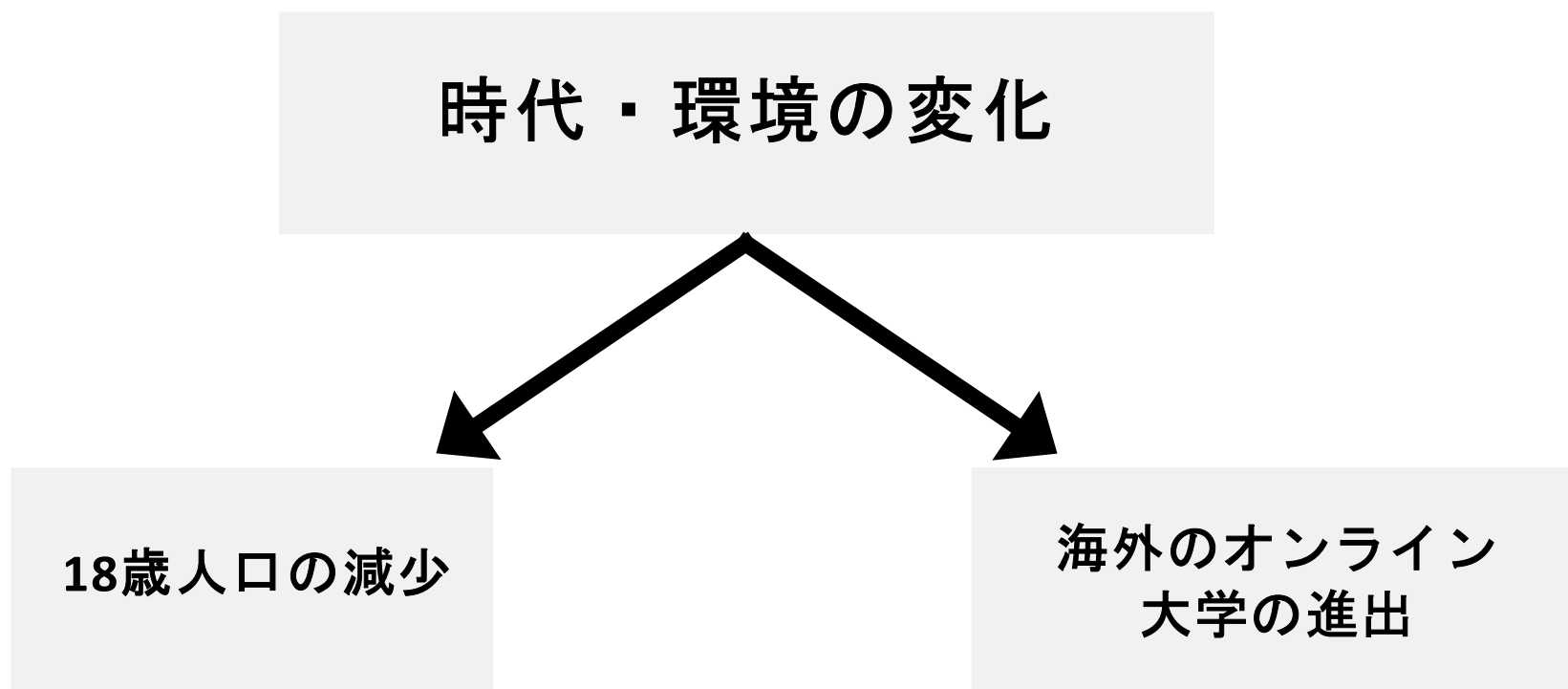
2030年：100.8万人

**28%減少**

2050年：72.5万人

## 背景

時代の変化により今のままでは生き残れない大学が出てくる



# 将来に向けてどう変わっていくか

大学規模を縮小する？

学費収入に頼らない大学運営？

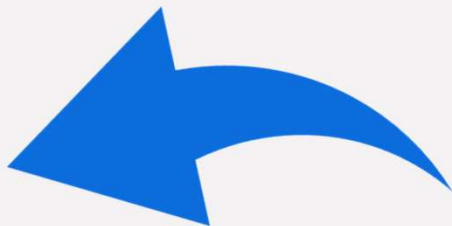
- 短期プログラムや企業向けの授業

大学業務の効率化？

志願者数の増加

学生支援の質

教職員の業務の質



## 質向上を妨げているもの

---

### 労力

一人当たりの業務量の  
限界・人手不足

### 時間

業務時間の制限・  
問い合わせ対応

## 事務職員が推進すること

01



学生一人ひとりに  
AIが最適な  
学習方法を提供

02



教職員の業務に  
AIを活用する

03



各データ統合する  
ことで業務を  
効率化する



# AIを教育・事務へ活用

## 学生一人ひとりを AIがサポート

- ・AIが学生一人ひとりの学習レベル、得意・苦手な単元に合わせて適切な教材を選んで提供

## 教職員の業務も AIがサポート

- ・公式LINE
- ・チャットボットの導入

A cup of coffee on a saucer next to a laptop keyboard.

# AIを活用するためのデータ準備

データベースの統合  
データレイクへ必要なデータの統合

⇒AIが効率よくデータを活用できるようになる

# データ共有できたら こんなことができる



- ① 広報活動
- ② 入学前
- ③ 学生生活
- ④ キャリア支援
- ⑤ 卒業後



## 入学前

- ・ 広報活動の強化
- ターゲットに応じたアプローチ
- ・ 入学前教育プログラム (eラーニング)
- 入学前から学生の様子を把握

## 在学中

- ・ 学生カルテ
- 適切なサポートを提供
- ・ ポートフォリオ
- 在学中の出来事を記録し就活に活用
- ・ 退学者データ分析 (BIツール)
- 退学防止
- ・ 授業アンケート (オンライン実施)
- 学修成果の可視化・個別フィードバック
- ・ 業務の効率化
- 業務負担軽減 = 質向上

## 卒業

- ・ 学生のキャリア支援の強化
- 適切なサポートを提供
- ・ 卒業生アンケート
- 翌年以降の広報活動へ活用

データ共有

=

意思共有



2050

サバイバル



生き残るのは誰だ